

浜の活力再生プラン

1 地域水産業再生委員会

組織名	古和浦地域水産業再生委員会
代表者名	浦和民彌

再生委員会の 構成員	古和浦漁業協同組合、南伊勢町
オブザーバー	三重県

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	南伊勢町古和浦地区（94名） 魚類養殖（10名）、藻類養殖（1名）、定置網漁業（12名）、イセエビ刺し網（24名）、かご漁業（44名）、一本釣り（5名）
-------------------	---

※複数漁業種類での兼業有り。

2 地域の現状

(1) 関連する水産業を取り巻く現状等

古和浦地区では平穏な古和湾を背景に古くから様々な漁業が行われ、漁村として栄えてきた。現在、古和浦漁協には94名の正組合員が所属しており、マダイ養殖、アオノリ養殖等の養殖業のほか、定置網漁業、イセエビ刺し網、かご漁業等に従事している。マダイ養殖では三重県が進める伊勢まだいの取組に1事業者が参加するとともに、イセエビ刺し網では、禁漁区を設けて毎年600～700尾程度の稚エビを放流しており、漁獲量が増加するなど効果が出てきている。

また、地域住民が運営する「古和浦未来クラブ」が、毎週土・日曜日と祝日の朝9時から『土日祭市』を開催し、古和浦の新鮮な海産物を中心に、野菜や郷土寿司、干物、南伊勢町の特産品を販売している。

さらに、三重大学と中部電力の地域貢献事業と連携して、ヒロメの養殖試験やアラメ・カジメの藻場造成を実施しているほか、漁業者の主体的な取組として、

- ①県が進める伊勢まだいへの取組
- ②稚エビの放流など伊勢エビの資源管理
- ③アサリ稚貝着底基質の設置によるアサリ稚貝の採集試験
- ④磯掃除等によるヒジキ藻場の再生
- ⑤地元で水揚げされた魚介類等を古和浦未来クラブで販売、PR

などを実施している。

しかしながら、他地域と同様に魚価の低迷に加え、燃油代やえさ代の高騰から経営は厳しくなっている。

(2) その他の関連する現状等

20 経営体が遊漁業を営むほか、県内の小学生を集めたバスケットボール大会を誘致し、その関連イベントとして漁業体験を行うなど交流事業にも積極的に取り組んでいる。

高速道路の延伸に伴い、訪れる観光客も増加傾向にあることから、今後、交流事業も重視していくこととしている。

3 活性化の取組方針

(1) 基本方針

もうかる水産業を実現するため、以下の取組を行う

(1) 自主的な資源管理の徹底による高齢化への対応や経営の安定化

資源の減少や高齢化の進展等により経営環境が厳しくなっていることから、三重大学等と連携して藻場造成を計画的に進めるとともに、カサゴの放流や小型イセエビの再放流の実施、磯掃除等によるヒジキ藻場の拡大・造成を進めることにより、漁場が近く、高齢者でも漁獲しやすい定着性の水産物（イセエビ、ヒジキ）の増殖を図る。

(2) 魚類養殖業の高品質化・複合化による経営の安定化

魚価の低迷と飼料価格の高騰により所得が低迷していることから、養殖マダイに三重県特産の海藻類、柑橘類、伊勢茶等を添加した飼料を給餌して高付加価値化する「伊勢まだい」の生産拡大を図る。また、養殖の主力魚種であるブリ、マダイの他に、ハギ類など短期間で養殖できる魚種の導入や、新たな貝類・藻類等の養殖への取組により収入の複合化を図る。

(3) 魚価向上に向けた6次産業化の取組

産地での魚価の低迷が、そのまま漁家所得の低迷につながっていることから、上記取組の成果をはじめとする地元水産物を直売施設「古和浦未来クラブ」等で販売、PRしていく仕組みを構築することで、魚価の向上を図る。

また、漁業者が漁獲した魚介類を、漁業者自らが空いている時間を利用して、簡易な加工処理まで行う施設を整備し、漁業者の主体的な6次産業化に向けた取組の推進を図る。

(4) 都市住民との交流や観光漁業の推進による地域の活性化

「古和浦未来クラブ」が主催するスポーツイベントでの漁業体験等の開催や、漁協が管理運営するクルージングの展開により、都市住民との交流や観光漁業を推進し、地域の活性化を図る。

(5) 漁場までに要する燃油使用量の削減

カサゴの放流や小型イセエビの再放流を実施し、漁場が近く、高齢者でも漁獲しやすい定着性水産物の資源増大を図ることで、漁場までに要する燃油使用量を削減し、燃油コストの削減を図る。

(6) 省燃油に向けた取組によるコストの削減

省燃油活動推進事業を活用するとともに、全漁業者が定期的に船底清掃に取り組むことで燃油コストの削減を図る。

(2) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

三重県漁業調整規則（体長等の制限）

第三十七条 次の表の上欄に掲げる水産動物は、それぞれ当該下欄に掲げる大きさのものは、採捕してはならない。

いせえび 頭胸甲長 4.2センチメートル以下（両眼上棘基部中央点から頭胸甲後端中央点に至る長さ）

(3) 具体的な取組内容（毎年ごとに数値目標とともに記載）

1年目（平成26年度）

取組内容は、取組の進捗状況や得られた成果等を踏まえ必要に応じ見直すこととする。

漁業収入向上のための取組	以下の取組を漁業者が積極的に行うことにより漁業所得を基準年より1.0%向上させる。 ① カサゴの放流や小型イセエビの再放流を実施し、積極的に資源保護を図りながら、漁獲量の拡大を図る。また、漁家所得の向上のため、ヒジキ藻場の拡大・造成に向けて、県や町の支援のもと漁業者によるヒジキ幼胚の採取や磯掃除、幼胚の散布等の試験に取り組む。 ② 養殖マダイに三重県特産の海藻類、柑橘類、伊勢茶等を一定の割合で添加した飼料を給餌する「伊勢まだい」は通常のマダイに比べ高値で安定的に取引されていることから、伊勢まだい生産者で構成される生産者部会に参加するなど、三重県漁業協同組合連合会（以下三重漁連）と連携して販路の拡大に取り組む。また、複合養殖による収入の安定をめざし、アサリの垂下式養殖のための採苗ネットを用いた稚貝の採集試験を実施する。さらに、三重大学と中部電力の地域貢献事業と連携して、ヒロメの養殖試験やアラメ・カジメの藻場造成を実施するとともに、ヒロメ塩蔵品の作成試験に取り組む。 ③ 魚価の向上を図るため、地元水産物を直売施設「古和浦未来クラブ」で販売、PRしていく仕組みの構築に向けた検討を行う。また、町が主催する魚食普及イベント「おさかなフェスタ南伊勢」に参加し、古和浦産水産物のPRを図る。 ④ 「古和浦未来クラブ」が主催するスポーツイベントでの漁業体験等を開催し、魚食普及や後継者育成への発展を図る。また、都市住民との交流や観光漁業を推進するため、漁協が管理運営するクルージングの展開により、地域の活性化を図る。
漁業コスト削減のための取組	以下の取組を漁業者が積極的に行うことにより漁業所得を基準年より0.2%向上させる。 ① カサゴの放流や小型イセエビの再放流を実施し、漁場が近く、高齢者でも漁獲しやすい定着性水産物の資源増大を図ることで、漁場までに要する燃油使用量を削減し、燃油コストの削減を図る。 ② 漁業者が定期的に船底清掃に取り組む体制づくりを進めることで、燃油コストの削減を図る。
活用する支援措置等	地域水産業・漁村振興計画推進事業（三重県） 省燃油活動推進事業

2年目（平成27年度）

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>以下の取組を漁業者が積極的に行うことにより漁業所得を基準年より3.0%向上させる。</p> <p>① カサゴの放流や小型イセエビの再放流を実施し、積極的に資源保護を図るとともに、操業日数の段階的な削減など資源管理型漁業の導入について検討を行うなど、将来的な漁獲量の拡大を図る。また、漁家所得の向上のため、ヒジキ藻場の拡大・造成に向けて、県や町の支援のもと漁業者によるヒジキ幼胚の採取を実施するとともに、磯掃除、幼胚の散布等の試験を実施し、びじき藻場造成のための適地探索等に取り組む。</p> <p>② 「伊勢まだい」は通常のマダイに比べ高値で安定的に取引されていることから、三重漁連と連携した生産や販路の拡大に取り組む。また、複合養殖による経営の安定化をめざし、養殖の主力魚種であるブリ、マダイの他に、1年程度と短時間で養殖できるカワハギの試験養殖に取り組むとともに、アサリの垂下式養殖に向けて稚貝採苗ネットを干潟に敷設し、稚貝採集のための適地を探索する。さらに、ヒロメの養殖の本格展開に向けた漁場の選定、養殖条件の設定を進めるとともに、生産したヒロメを用いた塩蔵品の作成を行う。</p> <p>③ 地元水産物を活用した加工品等を直売施設「古和浦未来クラブ」で販売するとともに、「おさかなフェスタ南伊勢」等の魚食普及イベントへ積極的に参加することで古和浦産水産物をPRするなど、魚価の向上を図る。</p> <p>④ 「古和浦未来クラブ」が主催するスポーツイベントでの漁業体験等を開催し、魚食普及や後継者育成への発展を図る。また、都市住民との交流や観光漁業を推進するため、漁協が管理運営するクルージングの展開により、地域の活性化を図る。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>以下の取組を漁業者が積極的に行うことにより漁業所得を基準年より0.4%向上させる。</p> <p>① カサゴの放流や小型イセエビの再放流を実施し、漁場が近く、高齢者でも漁獲しやすい定着性水産物の資源増大を図ることで、漁場までに要する燃油使用量を削減し、燃油コストの削減を図る。</p> <p>② 漁業者が定期的に船底清掃に取り組む体制づくりを進めるとともに、省燃油活動推進事業への取組を検討することで、燃油コストの削減を図る。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>省燃油活動推進事業 二枚貝緊急増殖対策事業 産地水産業強化支援事業</p>

3年目（平成28年度）

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>以下の取組を漁業者が積極的に行うことにより漁業所得を基準年より5.0%向上させる。</p> <p>① カサゴの放流や小型イセエビの再放流を実施し、積極的に資源保護を図るとともに、操業日数の段階的な削減など資源管理型漁業の導入について試験を行うなど、将来的な漁獲量の拡大を図る。また、漁家所得の向上のため、ヒジキ藻場の拡大・造成に向けて、県や町の支援のもと漁業者によるヒジキ幼胚の採取を実施するとともに、磯掃除、幼胚の散布等の試験を実施し、びじき藻場造成のための適地探索等に取り組む。</p> <p>② 「伊勢まだい」は通常のマダイに比べ高値で安定的に取引されていることから、三重漁連と連携した生産や販路の拡大に取り組む。また、短期間で養殖できるカワハギの養殖の生産や県と連携した品質の向上に取り組み、複合養殖による経営の安定化を図る。さらに、養殖マダイ等を用いた押し寿司や鯛めし等の加工品の開発による付加価値の向上に取り組む。加えて、アサリ稚貝着底基質の設置によるアサリ稚貝の採集・垂下養殖の実施によるアサリ資源の増大、ヒロメの養殖及び生産したヒロメを用いた塩蔵品の作成を行い、特産物としての販売、PRを行う。</p> <p>③ 地元水産物を活用した加工品等を直売施設「古和浦未来クラブ」で販売するとともに、「おさかなフェスタ南伊勢」等の魚食普及イベントへ積極的に参加することで古和浦産水産物をPRするなど、魚価の向上を図る。</p> <p>④ 「古和浦未来クラブ」が主催するスポーツイベントでの漁業体験等を開催し、魚食普及や後継者育成への発展を図る。また、都市住民との交流や観光漁業を推進するため、漁協が管理運営するクルージングの展開により、地域の活性化を図る。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>以下の取組を漁業者が積極的に行うことにより漁業所得を基準年より0.6%向上させる。</p> <p>① カサゴの放流や小型イセエビの再放流を実施し、漁場が近く、高齢者でも漁獲しやすい定着性水産物の資源増大を図ることで、漁場までに要する燃油使用量を削減し、燃油コストの削減を図る。</p> <p>② 漁業者が定期的に船底清掃に取り組む体制づくりを進めるとともに、省燃油活動推進事業に取り組むことで、燃油コストの削減を図る。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>省燃油活動推進事業 二枚貝緊急増殖対策事業 産地水産業強化支援事業</p>

4年目（平成29年度）

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>以下の取組を漁業者が積極的に行うことにより漁業所得を基準年より7.0%向上させる。</p> <p>① カサゴの放流や小型イセエビの再放流を実施し、積極的に資源保護を図るとともに、操業日数の段階的な削減など資源管理型漁業の導入について試験を行うなど、将来的な漁獲量の拡大を図る。また、ヒジキ磯掃除等によるヒジキ藻場の拡大・造成を進めることにより、漁家所得の向上を図る</p> <p>② 「伊勢まだい」は通常のマダイに比べ高値で安定的に取引されていることから、三重漁連と連携した生産や販路の拡大に取り組む。また、短期間で養殖できるカワハギの養殖の生産や県と連携した品質の向上に取り組み、複合養殖による経営の安定化を図るとともに、養殖マダイ等を用いた押し寿司や鯛めし等の加工品の生産による付加価値の向上に取り組む。</p> <p>さらに、漁業者の主体的な6次産業化に向けた取組の推進により漁業経営の安定化を図るため、漁業者が漁獲した魚介類を、漁業者自らが空いている時間を利用して、簡易な加工処理まで行う施設の整備に向けた設計等の検討を行う。</p> <p>加えて、アサリ稚貝着底基質の設置によるアサリ稚貝の採集・垂下養殖の実施によるアサリ資源の増大を図るとともに、この取組の漁業体験への活用を検討する。また、ヒロメ増産に向けた養殖場の造成について検討を行うとともに、生産したヒロメを用いた塩蔵品の作成を行い、特産物としての販売、PRを行う。さらに、生ヒロメの出荷のための技術導入について検討を行う</p> <p>③ 地元水産物を活用した加工品等を直売施設「古和浦未来クラブ」で販売するとともに、「おさかなフェスタ南伊勢」等の魚食普及イベントへ積極的に参加することで古和浦産水産物をPRするなど、魚価の向上を図る。</p> <p>④ 「古和浦未来クラブ」が主催するスポーツイベントでの漁業体験等を開催し、魚食普及や後継者育成への発展を図る。また、都市住民との交流や観光漁業を推進するため、漁協が管理運営するクルージングの展開により、地域の活性化を図る。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>以下の取組を漁業者が積極的に行うことにより漁業所得を基準年より0.8%向上させる。</p> <p>① カサゴの放流や小型イセエビの再放流を実施し、漁場が近く、高齢者でも漁獲しやすい定着性水産物の資源増大を図ることで、漁場までに要する燃油使用量を削減し、燃油コストの削減を図る。</p> <p>② 漁業者が定期的に船底清掃に取り組む体制づくりを進めるとともに、省燃油活動推進事業に取り組むことで、燃油コストの削減を図る。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>省燃油活動推進事業 二枚貝緊急増殖対策事業 産地水産業強化支援事業</p>

5年目（平成30年度）

最終年であり、以下の取組を引き続き行うが、目標達成を確実なものとするよう、プラン取組の成果を検証し必要な見直しを行うこととする。

漁業収入向上のための取組	<p>下の取組を漁業者が積極的に行うことにより漁業所得を基準年より9.8%向上させる。</p> <p>① カサゴの放流や小型イセエビの再放流を実施し、積極的に資源保護を図るとともに、操業日数の段階的な削減など資源管理型漁業の導入を進め、将来的な漁獲量の拡大を図る。また、ヒジキ磯掃除等によるヒジキ藻場の拡大・造成を進めることにより、漁家所得の向上を図る</p> <p>② 「伊勢まだい」は通常のマダイに比べ高値で安定的に取引されていることから、三重漁連と連携した生産や販路の拡大に取り組む。また、短期間で養殖できるカワハギの養殖に取り組み、複合養殖による経営の安定化を図るとともに、養殖マダイ等を用いた押し寿司や鯛めし等の加工品の生産による付加価値の向上に取り組む。</p> <p>さらに、漁業者が漁獲した魚介類を、漁業者自らが空いている時間を利用して、簡易な加工処理まで行う施設の整備を行い、漁業者の主体的な6次産業化に向けた取組を進める。</p> <p>加えて、アサリ稚貝着底基質の設置によるアサリ稚貝の採集・垂下養殖の実施によるアサリ資源の増大を図るとともに、この取組の漁業体験へ活用する。また、ヒロメ養殖場の整備などヒロメの増産を進めるとともに、生産したヒロメを用いた塩蔵品や生ヒロメ冷凍品を作成し、特産物としての販売、PRを行う。</p> <p>③ 地元水産物を活用した加工品等を直売施設「古和浦未来クラブ」で販売するとともに、「おさかなフェスタ南伊勢」等の魚食普及イベントへ積極的に参加することで古和浦産水産物をPRするなど、魚価の向上を図る。</p> <p>④ 「古和浦未来クラブ」が主催するスポーツイベントでの漁業体験等を開催し、魚食普及や後継者育成への発展を図る。また、都市住民との交流や観光漁業を推進するため、漁協が管理運営するクルージングの展開により、地域の活性化を図る。</p>
漁業コスト削減のための取組	<p>以下の取組を漁業者が積極的に行うことにより漁業所得を基準年より1.0%向上させる。</p> <p>① カサゴの放流や小型イセエビの再放流を実施し、漁場が近く、高齢者でも漁獲しやすい定着性水産物の資源増大を図ることで、漁場までに要する燃油使用量を削減し、燃油コストの削減を図る。</p> <p>② 全漁業者が定期的に船底清掃に取り組むとともに、省燃油活動推進事業に取り組むことで、燃油コストの削減を図る。</p>
活用する支援措置等	<p>省燃油活動推進事業 二枚貝緊急増殖対策事業 産地水産業強化支援事業</p>

(4) 関係機関との連携

東紀州地域に高速道路が延伸し、釣り人以外の観光客の増加が見込めることから、観光協会等とも連携しながら、漁業体験への小中学生の誘致、観光クルージングの展開等を進めて行く。

4 目標

(1) 数値目標

漁業所得の向上10% 以上	基準年	平成25年度：漁業所得 円
	目標年	平成30年度：漁業所得 円

(2) 上記の算出方法及びその妥当性 (58経営体)

--

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
強い水産業づくり交付金 産地水産業強化支援事業 (ハード)	共同加工場の整備
強い水産業づくり交付金 産地水産業強化支援事業 (ソフト)	①養殖マダイ等を用いた押し寿司や鯛飯等の地元水産物を活用した商品等の開発・販売・PR ②郷土料理の提供など魚食普及や都市との交流のための仕組みの構築
省燃油活動推進事業	船底清掃による漁船燃油コストの削減
二枚貝緊急増殖対策事業	アサリ稚貝着底基質の設置によるアサリ稚貝の採集・垂下養殖の実施によるアサリ資源の増大